

グループインタビューの結果

調査の位置づけ

地域福祉計画を実効性あるものにするため、地域に既にある実践・参加要因・圏域ごとの役割を把握し、次期計画の施策検討に活用する。

■ 調査で見たいこと

地域コミュニティの実態、活動資源、住民参加を生む要因を把握する
課題だけでなく、地域に既にある前向きな実践・小さな成功を整理する
委員会やワークショップで地域資源を生かした施策検討に使える材料にする



地域福祉計画の策定プロセスに、地域活動の実態と住民参加の構造を接続するための調査として位置づける。

前回計画の方向性と今回調査の位置づけ

今回のインタビューは、前回計画で示された方向性を、7地区の実践・課題・参加構造から確認し、次期計画に向けた具体論点を整理する位置づけとなっている

前回計画で示された方向性	今回調査で確認したこと
住民主体の地域づくり	サロン、朝市、喫茶、子ども食堂、祭りなどが、交流・見守り・小さな役割づくりとして機能している
圏域ごとの役割分担	行政区・自治会は日常の見守りや気づきに近く、地域コミュニティ組織は地区横断の活動・拠点運営・行政との接点を担う傾向がある
地域の実情に応じた活動推進	都市部、観光地、小規模農村、NPO運営地区などで、参加の入口・担い手課題・生活圏・移動課題の出方が異なる
多様な主体の参加・連携	地域住民だけでなく、NPO、地元企業、移住者、子ども・子育て世代などが、活動の担い手や参加者になり得ることを確認した
地域活動への理解・関心の向上	活動を知らない住民や、役割担う前の段階にいる住民に対して、どのような入口・情報提供が有効かを住民アンケートで確認する必要がある

調査対象地区と選定理由

協議の上、様々な特徴を持つ7地区を選定し、地域マネージャーや役員等の方々にインタビューを実施

地域コミュニティ組織	コミュニティの特徴	選定理由
八条	都市	都市部において若年世帯が比較的多く住むエリアにおける地域社会の関係性や多世代との交流について現状を把握するため
城崎	観光	豊岡市内の文化芸術活動の先行事例である城崎エリアにおいて地域社会にどのような変化が生まれたかを明らかにするため
竹野南	文化活動重視	他のエリアと違い、コミュニティの運営がNPOとして法人格を持っている。活動内容についてどのような特徴や運営における課題について明らかにするため
竹野	沿岸	地域おこし協力隊が多く住んでおり、移住者が多い地域であること、海側と山側でライフスタイルが異なるような、ごちゃまぜのエリアにおいてどのような地域社会のつながりが見えるのか？を明らかにするため
日高	郊外	城崎エリアに続いて生まれた江原エリアの芸術文化活動によって地域社会にどのような変化が生まれたかを明らかにするため
小野	地域行事重視	市内でも人の流動性が高く、人口減少が見られる中でどのように地域社会のつながりを作っているのかを調査するため
高橋	小規模農村	地域の祭りや地域住民とのつながりを調査するため



地域コミュニティ組織へのグループインタビューの結果

- ・組織の成熟度・運営体制・地域資源に応じて、支援の在り方を柔軟に考える必要がある
- ・都市部以外は日常生活のための移動手段のニーズが根強く、運転手不足を住民の共助でまかなっている
- ・地域のつながりを防災に活かす意識が高い(歴史的に震災や水害を経験している地域)

コミュニティの特徴	地域コミュニティ組織	強み	主な課題	今後の検討論点
都市・郊外	八条・日高	人口規模、拠点機能、企画運営のリソース	・人口が多い地区のため、個別の状況が見えにくい ・現役世代の参加が少ない	広報・予約・潜在ニーズの可視化
地域行事重視	小野	顔の見える見守り、文化・教室活動	・区を越えた連携が弱い	キーパーソン連携・活動横展開
観光	城崎	外湯・観光・朝市・カフェ	・エリアごとの住民の生活リズムの差がある ・移動困難	日常接点を見守りにつなぐ仕組み
文化活動重視	竹野南	NPO運営、喫茶・市場・地域の助け合い	・次世代の担い手への継承	NPO法人の運営ノウハウ・情報連携の支援
小規模・伝統文化	竹野・高橋	移住者、伝統文化、気軽な場	・若者流出/担い手不足	役割を担う住民を増やすためのゆるいつながりや参加をどう作るか

調査結果①：7地区から見えた共通点

- ・地域コミュニティへの支援は、活動名だけでなく「その活動が何の役割を果たしているか」を捉える必要がある
- ・同じ「交流活動」でも、地区によって見守り・買い物支援・世代間交流・防災啓発など役割が異なる

1. 活動の重なり

サロン・喫茶・朝市・教室等は、交流であり、見守りであり、役割づくりでもある

2. 参加の入口

役員や担い手になる前に、気軽に顔を出せる場や小さな手伝いが参加の入口になる

3. 地区差の大きさ

大規模地区では個別ニーズが見えにくく、小規模地区では担い手不足や若者流出が大きい

4. 横断課題

移動・防災・見守りは、多くの地区で共通する課題として確認された

調査結果②：7地区から見た地域ごとの違い

- ・ 違いは活動の良し悪しではなく、生活圏・地域規模・歴史・運営体制の違いとして捉える
- ・ 一律の施策より、地区特性・運営体制・住民の生活リズムに合わせた設計が必要

観点	見えてきた違い	例
生活圏の違い	同じ地区内でも、住民の生活リズムや移動範囲が異なる	城崎では、温泉街・観光地の湯島地区と農村的性格を持つ内川地区で、参加しやすい時間帯や移動課題が異なる
地域規模の違い	大規模地区では個別状況が見えにくく、小規模地区では顔が見えやすい一方で担い手が限られる	八条・日高では潜在ニーズの把握が課題。高橋・竹野南では担い手継承が課題
活動資源の違い	観光、伝統行事、喫茶、市場、サロンなど、参加の入口になる資源が地区ごとに異なる	城崎の外湯・朝市、竹野南の喫茶・市場、小野の味噌づくり、高橋のコミセン居酒屋
運営体制の違い	コミュニティ組織の成熟度やNPO法人化の有無により、担える役割が異なる	竹野南はNPO運営、小野は区単位の関係性が強い

行政区と地区圏域の役割

行政区は生活に近い単位、地域コミュニティ組織は地区横断で活動を支える単位として捉える

単位	主な役割	調査で見えたこと
行政区・自治会	住民に近い生活単位。顔の見える関係、声かけ、日常の困りごとの把握に強い	小野のように区単位の関係性が強い地区では、見守りや生活文化の継承が機能しやすい
地域コミュニティ組織	地区圏域、公民館区単位で、複数区をまたぐ活動、拠点運営、交流事業、行政との接点を担う	サロン、朝市、チャレンジ事業、コミセン居酒屋など、区を越えた参加の入口を作っている
今後の論点	行政区の近さと、コミュニティ組織の横断性をどう組み合わせるか	地域福祉計画では、生活単位の見守りと、地区全体の活動支援を分けて考える必要がある

生活に近い情報

「最近様子が違う」「退院してきた」など、日常の変化は行政区・近隣関係で把握されやすい。

地区横断の支援

広報・拠点運営・交流事業・行政との調整は、地域コミュニティ組織が担いやすい。

地域に既にある実践例

活動は「場」だけでなく、見守り・役割・関係性を生む仕組みとして機能している

城崎：みんなのカフェ・朝市

高齢者の居場所、困りごとの把握、買い物支援、観光客にも開かれた交流の場。

日高：チャレンジ事業

住民がやりたい企画を持ち込み、子育て世代・若者・新規層の入口になっている。

小野：味噌づくり

生活文化が交流や再会の場になり、地域の技術を持つ人の役割づくりにつながる。

竹野南：喫茶・市場・訪問

日常生活の中に交流・買い物・見守りが組み込まれ、住民同士の情報が自然に集まる。

竹野：強制しない参加

生活リズムの違いを前提に、来られる人で進める柔軟な参加の考え方が見られる。

高橋：コミセン居酒屋

役を担う前に、楽しそうだから顔を出すというゆるやかな参加の入口になっている。

八条：サロン・移動支援

大きな地区の中で、サロンや送迎を通じた外出機会・見守りが重要な役割を持つ。

参考：地区別補足整理①

地区	活動・強み	課題・論点
八条	サロン、出張サロン、送迎、防災・防犯、子ども向け活動	地区間格差、現役世代の参加、移動支援、情報伝達
日高	チャレンジ事業、子どもアトリエ食堂、フリーマーケット、地域探検	人口規模が大きく個別ニーズが見えにくい、貸館対応等の事務局負荷
小野	味噌づくり、しめ縄、男の料理教室、区単位の見守り	区単位の強さと地区横断連携、キーパーソンの役割づくり
城崎	みんなのカフェ、出張カフェ、朝市、フラワープロジェクト、防災啓発	湯島・内川の生活環境差、観光業の生活リズム、移動困難

参考：地区別補足整理②

地区	活動・強み	課題・論点
竹野南	NPO、ふれあい喫茶、市場、ミニデイ、訪問、子ども・親子の集まり	次世代継承、活動の持続、日常会話を支援につなげる仕組み
竹野	福祉・防災・交流の3本柱、駅利用促進、伝統文化、移住者の関わり	生活リズム差、強制しない参加、関心や得意分野に応じた役割設計
高橋	コミセン居酒屋、ふれあい運動会、文化祭、空き家対策、移住者報告会	人口減少、若者流出、担い手不足、役を担う前のゆるやかな参加

小規模地区では、既存の人間関係が強みである一方、担い手の世代交代や外部人材との関係づくりが今後の論点になる。